

コロナ禍での身体変工経験増加の実体およびその理由 －脱毛や美容整形や増毛を対象とした検討－

新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行により、日常生活は大きな影響を受けた。その内容は多岐にわたるが、その一つに装いに関する行動がある。例えば、化粧はマスク着用という習慣によって直接的に影響を受け、その結果、化粧の実施状況に変化が見られている。また、歯科矯正や美容整形などをおこなう者が増えているとの指摘もある。メディアにおいても、美容整形や脱毛の増加をテーマとした番組や記事が散見され、興味関心を持たれるテーマであることがうかがえる。

それでは、脱毛や美容整形などの身体変工（身体に直接手を加える装い）は実際にどの程度コロナ禍で増加したのだろうか。また、コロナ禍で身体変工をおこなった理由はどのようなものがあるのだろうか。実際にどのくらいの方がコロナ禍で身体変工をおこないはじめたのか、そこに性差や年齢差はあるのか、そして、新たに身体変工をおこないはじめた理由はどのようなものなのか、それらについて明らかにすることは、人々の身体に対する意識や行動について、大きな環境の変化を切り口として、明らかにすることができると期待される。

そこで本調査は、身体変工として「脱毛」、「美容整形・プチ整形」、「増毛・育毛・抜け毛対策」の3つを扱い、それぞれについて、まずは1)コロナ禍前に対してコロナ禍中にどの程度経験数が増加したか、2)経験増加に性差や年齢差があるのか、を明らかにする。次に、3)コロナ禍中に経験した人の理由は何か、4)興味関心はいつからか、5)実施に満足しているか、について明らかにする。なお、コロナ禍前は、新型コロナウイルスの流行によって日常生活が影響を受ける前、コロナ禍中は影響を受けはじめてから現在（調査時点）までとする。

調査 1

目的

コロナ禍前に対してコロナ禍中にどの程度経験が増加したか、そこに性差や年齢差があるのか確認する。

方法

対象および実施手続き 成人男女 3142 名（男性 1497 名、女性 1645 名）を対象とした。性別および年齢層別に同程度の割り付けで実施した。web 調査サービス（アイブリッジ株式会社）に登録しているモニターを対象に、2023 年 2 月に web 調査を実施した。倫理的配慮について説明し同意を得た者に回答を求めた。

調査内容 「脱毛サロンやエステサロンやクリニックでの脱毛」「自宅での家庭用脱毛器による脱毛」「自宅でのカミソリや脱毛ワックスなどによる脱毛」「クリニックなどでのプチ整形」「クリニックなどでの美容整形」「クリニックなどでの増毛・育毛・抜け毛対策」「自宅での増毛・育毛・抜け毛対策」のそれぞれについて、「コロナ禍前から経験がある」「コロナ禍中にはじめて経験した」「経験は無いが興味や関心はある」「経験は無いし興味や関心も無い」「回答したくない」から当てはまるところの選択肢を選択するように求めた。

結果および考察

それぞれの身体変工経験における回答について、性別および年齢層別にまとめたものを Figure 1 から Figure 7 に示す。全体として、性差と年齢差が確認された。脱毛と美容整形は女性においてコロナ禍前やコロナ禍中の

経験割合が大きく、また、増毛は男性においてコロナ禍前やコロナ禍中の経験割合が大きいことが明らかとなった。そしてそれらは、若年であるほど経験割合が大きい傾向が認められた。「自宅での増毛・育毛・抜け毛対策」のみ、女性は年齢が高いほどコロナ禍前からの経験割合が大きい傾向があることが明らかとなった。それぞれの特徴や性質によって、性差と年齢差が生じられたものと考えられる。

Figure 1 脱毛サロンやエステサロンやクリニックでの脱毛

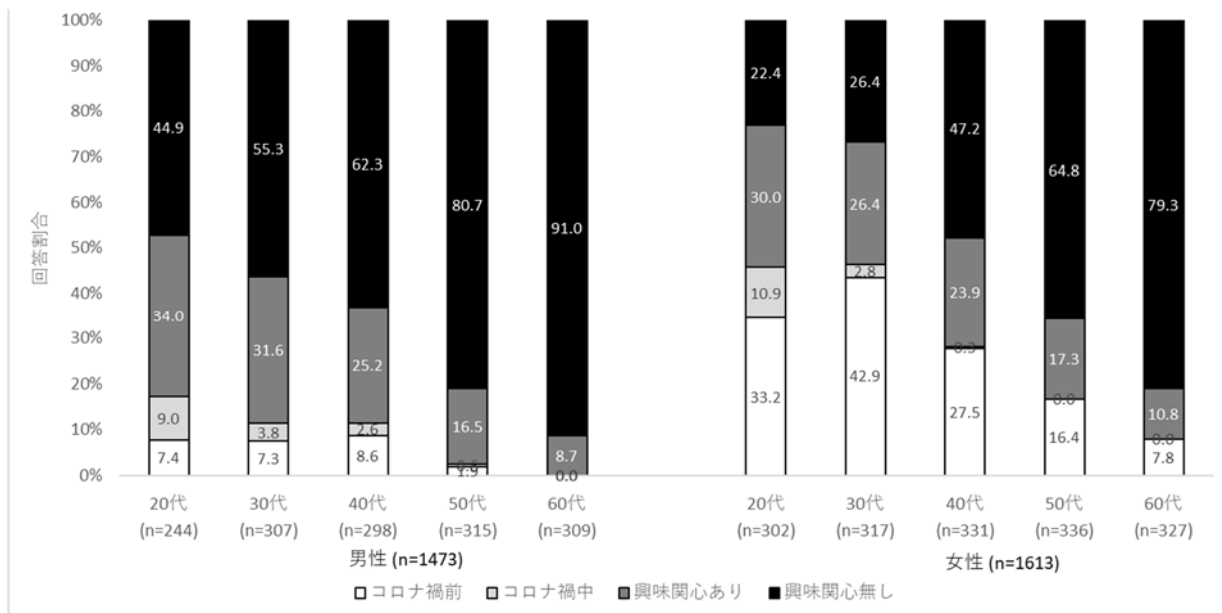


Figure 2 自宅での家庭用脱毛器による脱毛

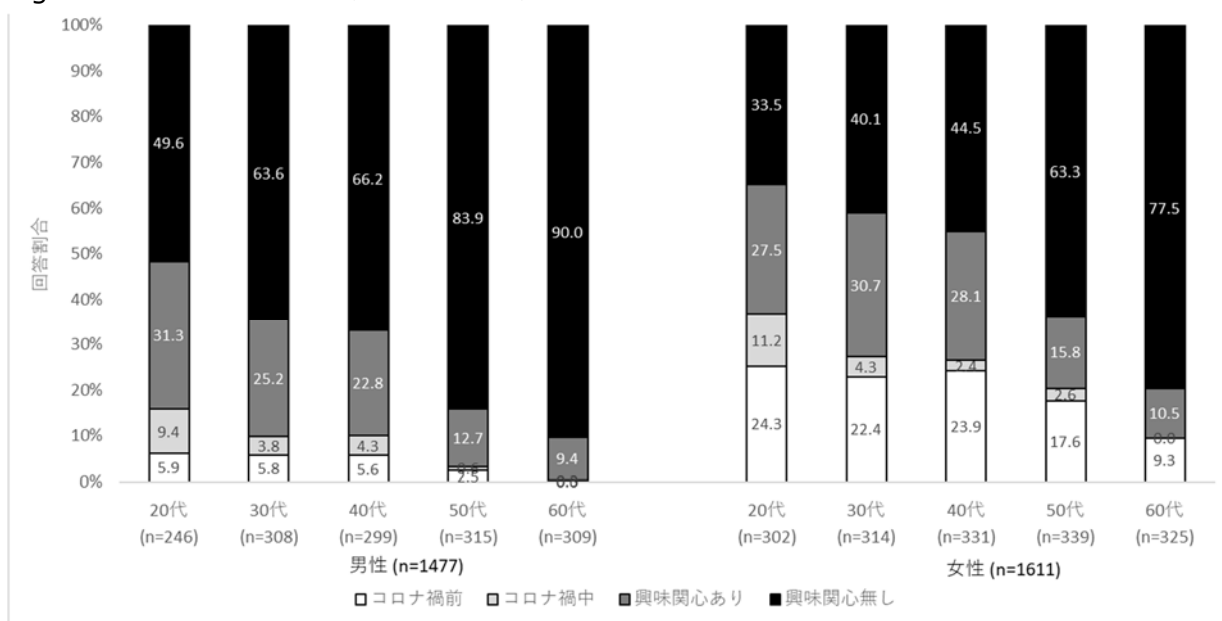


Figure 3 自宅でのカミソリや脱毛ワックスなどによる脱毛

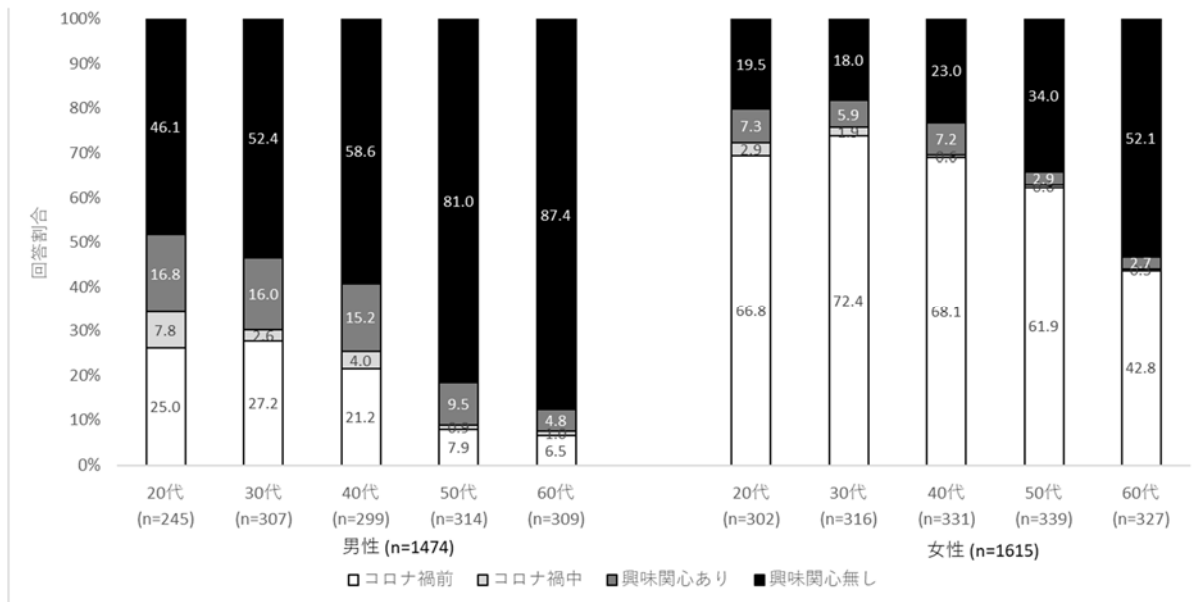


Figure 4 クリニックなどでのプチ整形

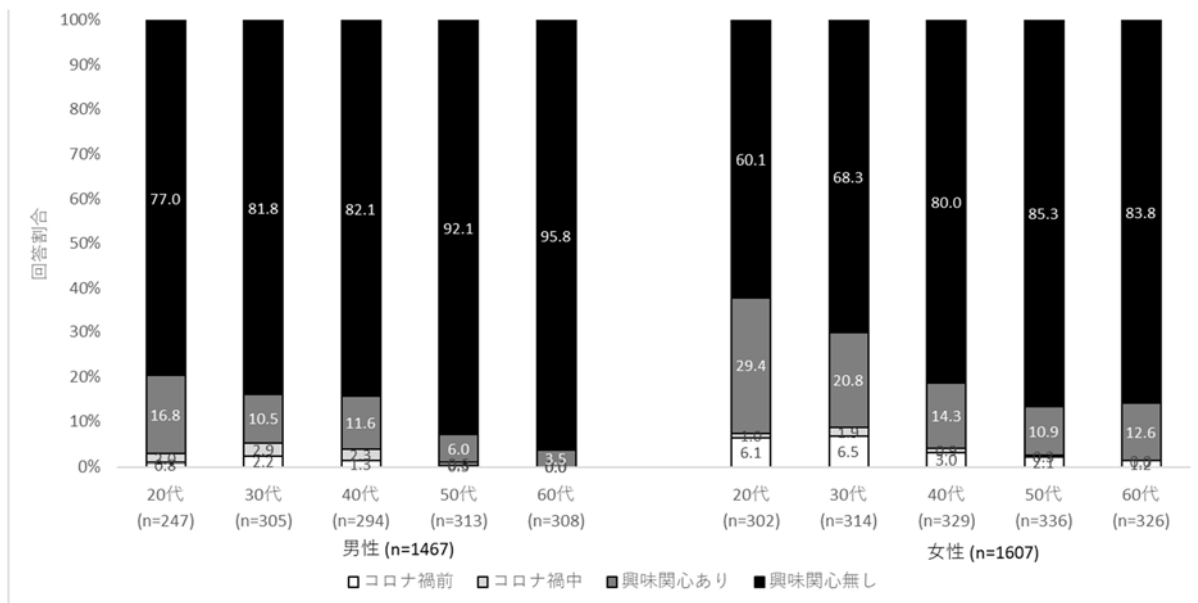


Figure 5 クリニックなどでの美容整形

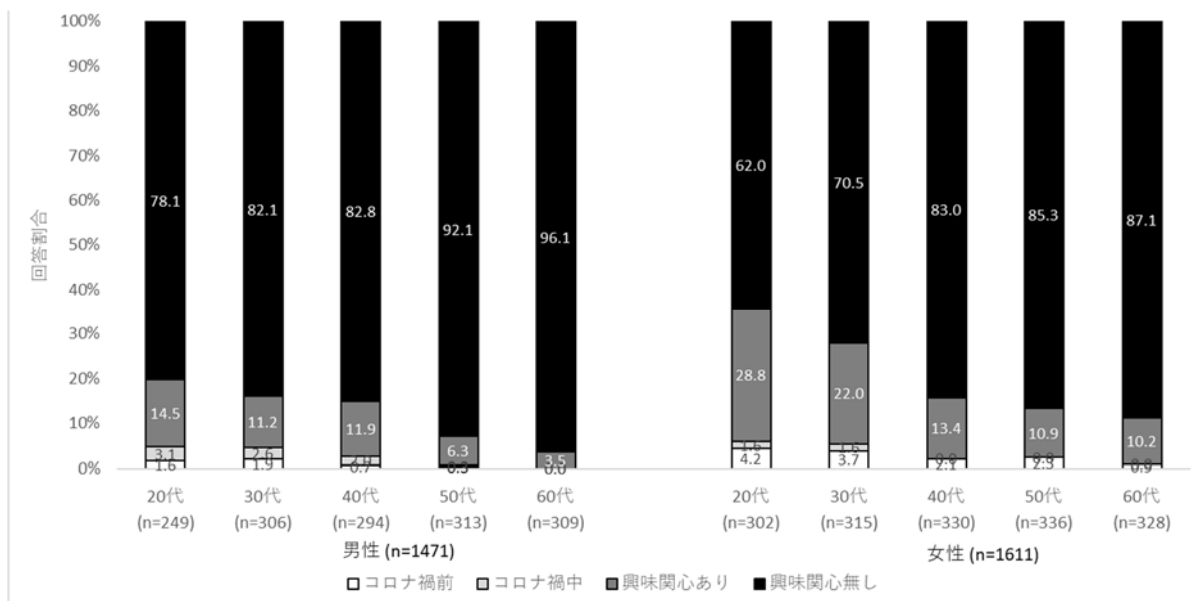


Figure 6 クリニックなどでの増毛・育毛・抜け毛対策

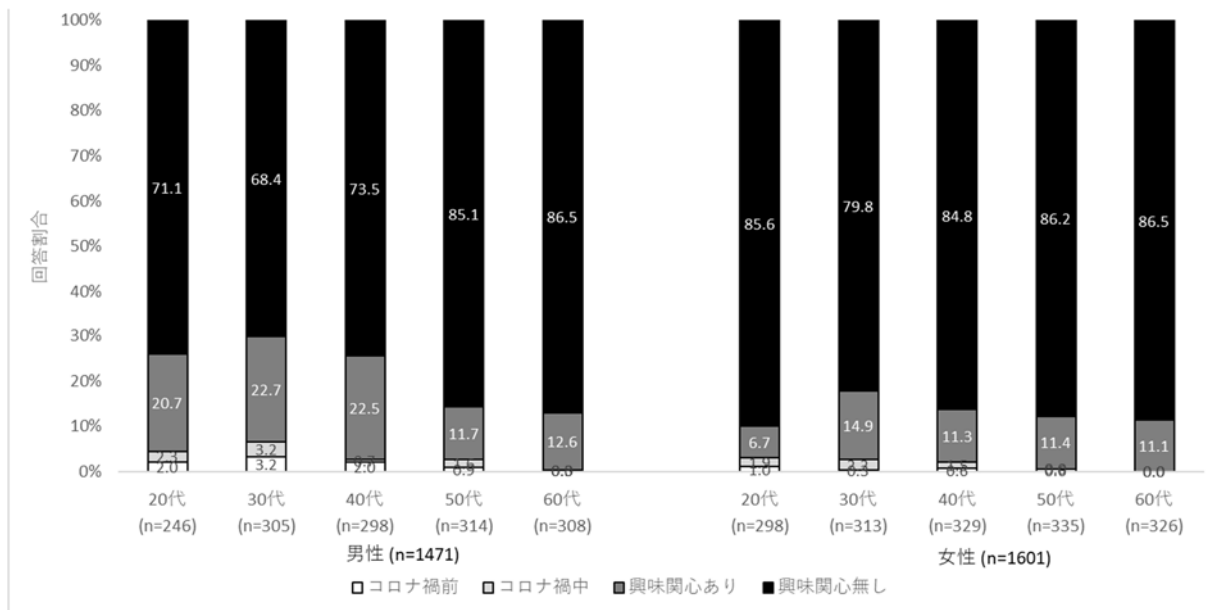
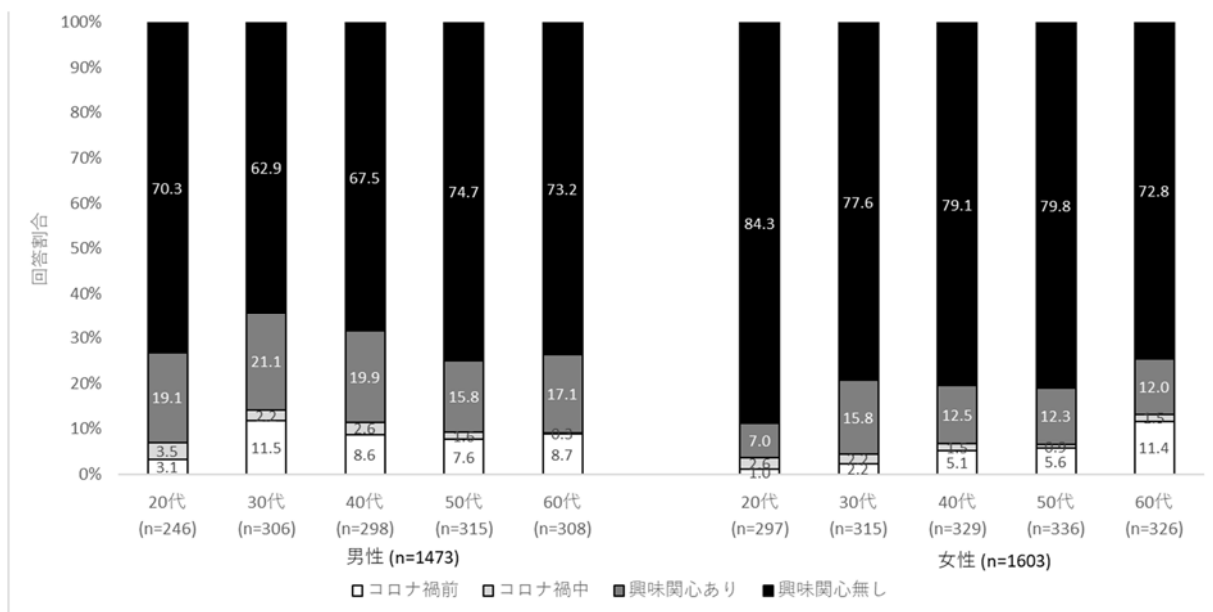


Figure 7 自宅での増毛・育毛・抜け毛対策



また、それぞれにおける、コロナ禍前に対する増加率（（コロナ禍前+コロナ禍中）/コロナ禍前）について、性別および年齢層別にまとめたものを Table 1 に示す。増加率については、脱毛と美容整形は男性において増加率が高く、特に若年層で顕著であった。また、増毛については、若年女性において増加率が高いことが明らかになった。脱毛や美容整形については、実施割合は女性の方が高いものの増加率は低いという結果であったが、これは、女性はすでに経験している者が多いということが原因と考えられる。

Table 1 コロナ禍前に対する増加率

		20代	30代	40代	50代	60代
脱毛サロンやエステサロンやクリニックでの脱毛	男性	221.1	152.2	130.8	133.3	-
	女性	132.7	106.5	101.1	100.0	100.0
自宅での家庭用脱毛器による脱毛	男性	260.0	166.7	176.5	125.0	-
	女性	146.1	119.4	110.0	115.0	100.0
自宅でのカミソリや脱毛ワックスなどによる脱毛	男性	131.3	109.4	118.8	112.0	115.0
	女性	104.3	102.6	100.9	100.9	100.7
クリニックなどでのプチ整形	男性	350.0	228.6	275.0	300.0	-
	女性	115.8	128.6	130.0	114.3	100.0
クリニックなどでの美容整形	男性	300.0	233.3	400.0	200.0	-
	女性	138.5	141.7	100.0	100.0	100.0
クリニックなどでの増毛・育毛・抜け毛対策	男性	220.0	200.0	133.3	266.7	100.0
	女性	300.0	800.0	350.0	100.0	-
自宅での増毛・育毛・抜け毛対策	男性	212.5	119.4	130.8	120.8	103.7
	女性	366.7	200.0	129.4	115.8	113.2

調査 2

目的

コロナ禍中に経験した人の理由について明らかにする。あわせて、興味や関心がコロナ禍前からあるのかコロナ禍中になってからなのか、そして、コロナ禍中にはじめておこなった経験に対して満足しているか否かについても明らかにする。

方法

対象および実施手続き 調査 1 にて「脱毛サロンやエステサロンやクリニックでの脱毛」、「自宅での家庭用脱毛器による脱毛」と「自宅でのカミソリや脱毛ワックスなどによる脱毛」のいずれかでコロナ禍中にはじめて経験した人を抽出し、「脱毛」コロナ禍中経験群 (n = 209 ; 男性 102 名, 女性 107 名 ; 平均年齢 33.4 歳, SD = 10.57) とした。「クリニックなどでのプチ整形」と「クリニックなどでの美容整形」のいずれかでコロナ禍中にはじめて経験した人を抽出し、「美容整形」コロナ禍中経験群 (n = 47 ; 男性 31 名, 女性 16 名, 平均年齢 36.3 歳, SD = 8.61) とした。「クリニックなどでの増毛・育毛・抜け毛対策」と「自宅での増毛・育毛・抜け毛対策」のいずれかでコロナ禍中にはじめて経験した人を抽出し、「増毛」コロナ禍中経験群 (n = 77 ; 男性 42 名, 女性 35 名, 平均年齢 39.5 歳, SD = 11.28) とした。web 調査サービス (アイブリッジ株式会社) に登録しているモニターを対象に, 2023 年 2 月に web 調査を実施した。上述のように, 研究 1 の調査において該当した者を抽出し, 調査を実施した。倫理的配慮について説明し, 同意を得た者に回答を求めた。

調査内容 a) 身体変工理由 : 予備調査で作成した項目を使用した。予備調査は, クラウドソーシングサービス (株式会社クラウドワークス) に登録しているワーカーを対象に, 「脱毛」, 「美容整形・プチ整形」, 「増毛・育毛・抜け毛対策」のそれぞれの経験者 50 名に対して, コロナ禍におこなった理由について自由記述での回答を求めた (2022 年 8 月から 2023 年 2 月に実施)。作成したそれぞれの理由の項目について, コロナ禍中にはじめて経験した理由として当てはまるものをすべて選択するように求めた。なお, 「特に理由はない」という選択肢を設け, 上記選択肢と排他的回答設定とした。b) 興味関心時期 : それぞれの身体管理の興味や関心を持った時期について, 「コロナ禍前から興味・関心があった (コロナ禍前)」か, それとも, 「コロナ禍中に興味・関心を持つようになった (コロナ可中)」か, 選択を求めた。c) 満足度 : それぞれの身体管理について, 実施したことへの満足度を「1. まったく満足していない」から「5. とても満足している」の 5 件法で回答を求めた。

結果および考察

コロナ禍中に実施した理由 脱毛についてコロナ禍中に実施した理由を男女別にまとめたものを Table 2 に、美容整形については Table 3 に、増毛については Table 4 に示す。

脱毛については、男性は「自分磨きの時間が出来たから」、「鏡を見たときに自分の姿が気になったから」「時間の余裕が出来たから」「マスメディアやインターネットなどで商品やサービスの広告を見たから」が 20%を越えていた。女性は、「特に理由が無い」「自分磨きの時間が出来たから」が 20%を越えていた。そして、男女差が認められた項目（クラメールの $V \geq .20$ ）は、「マスメディアやインターネットなどで商品やサービスの広告を見たから」「zoom などに映る自分の姿が気になったから」「特に理由は無い」であり、そこから、男性は広告からの刺激を受けていることが伺える。また、zoom の利用自体の性差が zoom による外見の意識喚起に影響している可能性もある。全体として、生活パターンが変わり時間に余裕ができることによって、自身を見る時間、また意識する時間が増えたことがきっかけと考えられる。また、これまでも興味が多少なりともあった者が、時間ができたことによって実際におこなってみたということもあると推測される。男性は、時間ができたことでメディアに目を向けることが増え、もしくは、実際にメディアで扱われることが増えてそれを目にする機会が増えた、ということも考えられる。女性においては、特段の理由を述べていない者が多いが、これは、後の興味関心の時期と合わせて考察する。

Table 2 コロナ禍中の脱毛開始理由

項目	男性	女性
経済的に余裕ができたから	9.8	11.2
時間の余裕が出来たから	20.6	17.8
コロナ禍での気分を切り替えようと思ったから	11.8	8.4
マスメディアやインターネットなどで商品やサービスの広告を見	<u>20.6</u>	1.9
SNSなどで商品やサービスの紹介をしている人がいたから	10.8	5.6
知人や友人に勧められたから	12.7	8.4
知人や友人がおこなっていたから	13.7	10.3
知人や友人に見た目について指摘されたから	7.8	0.9
おこなった直後に人に会わずにすむタイミングがあったから	10.8	1.9
自分磨きの時間が出来たから	28.4	22.4
zoomなどに映る自分の姿が気になったから	<u>10.8</u>	0.9
鏡を見たときに自分の姿が気になったから	26.5	18.7
その他	1.0	2.8
特に理由は無い	10.8	<u>29.0</u>

注) 下線は、性差が確認されたところ。大きい方に下線を引いている。

美容整形については、男性は「マスクでダウンタイムが目立たないから」「マスクのため変化に気づかれにくいと思ったから」「人と会わない時間ができてダウンタイムを気にしなくてよかったから」「鏡を見たときに自分の姿が気になったから」が 20%を越えており、女性は「人と会わない時間ができてダウンタイムを気にしなくてよかったから」「鏡を見たときに自分の姿が気になったから」が 20%を越えていた。男女差が認められた項目（クラメールの $V \geq .20$ ）は、「知人や友人に見た目について指摘されたから」「マスメディアやインターネットなどで広告を見たから」「コロナ禍での気分を切り替えようと思ったから」「特に理由は無い」であった。男女ともに人に会わないですむということや、自身の姿に意識を向ける機会が増えるといったコロナ禍による生活変化の影響が大きいことが伺える。また、男性は他者や社会といった外的要因を特に受けたことも示唆される。

Table 3 コロナ禍中の美容整形開始理由

項目	男性	女性
人と会わない時間ができてダウンタイムを気にしなくてよかった	22.6	25.0
マスクでダウンタイムが目立たないから	32.3	18.8
マスクのため変化に気づかれにくいと思ったから	32.3	18.8
知人や友人に勧められたから	9.7	6.3
知人や友人がおこなっていたから	9.7	18.8
知人や友人に見た目について指摘されたから	<u>19.4</u>	0.0
マスク生活でマスク以外のところに目が行き気になったから	16.1	6.3
マスメディアやインターネットなどで広告を見たから	<u>19.4</u>	0.0
SNSなどで体験を紹介をしている人がいたから	16.1	18.8
時間の余裕ができたから	16.1	18.8
経済的に余裕ができたから	16.1	18.8
コロナ禍での気分を切り替えようと思ったから	<u>19.4</u>	0.0
鏡を見たときに自分の姿が気になったから	22.6	25.0
自分と向き合う時間が増えて見た目を意識するようになったから	19.4	12.5
その他	3.2	0.0
特に理由は無い	3.2	<u>18.8</u>

注) 下線は、性差が確認されたところ。大きい方に下線を引いている。

Table 4 コロナ禍中の増毛開始理由

項目	男性	女性
経済的に余裕ができたから	9.8	11.2
時間の余裕が出来たから	20.6	17.8
コロナ禍での気分を切り替えようと思ったから	11.8	8.4
マスメディアやインターネットなどで商品やサービスの広告を見	<u>20.6</u>	1.9
SNSなどで商品やサービスの紹介をしている人がいたから	10.8	5.6
知人や友人に勧められたから	12.7	8.4
知人や友人がおこなっていたから	13.7	10.3
知人や友人に見た目について指摘されたから	7.8	0.9
おこなった直後に人に会わずにすむタイミングがあったから	10.8	1.9
自分磨きの時間が出来たから	28.4	22.4
zoomなどに映る自分の姿が気になったから	<u>10.8</u>	0.9
鏡を見たときに自分の姿が気になったから	26.5	18.7
その他	1.0	2.8
特に理由は無い	10.8	<u>29.0</u>

注) 下線は、性差が確認されたところ。大きい方に下線を引いている。

増毛については、男性は「鏡を見たときに気になったから」「zoomなどに映る自分の姿が気になったから」「家にいることが増えて掃除の時に抜け毛が気になったから」「自分の身体を意識することが増えたから」が20%を越えており、女性は「鏡を見たときに気になったから」が20%を越えていた。また、男女差が認められた項目(クラメールの $V \geq .20$)は、「家にいることが増えて掃除の時に抜け毛が気になったから」「zoomなどに映る自分の姿が気になったから」であった。男女ともに自身の姿(と抜け落ちた髪)に意識を向ける機会が増えるといったコロナ禍の影響が大きいことが伺える。そして、それは男性で特に顕著であり、男性の方がコロナ禍での生活

変化の影響を受けていると考えられた。

興味関心時期 脱毛について、男性はコロナ前は 61 名 (59.8%)、コロナ禍中は 41 名 (40.2%) に対し、女性はコロナ禍前が 88 名(82.2%)、コロナ禍中が 19 名 (17.8%) であり、性差が認められた (クラメールの $V = .25, p < .001$)。このことと、先の理由を考慮すると、男性はコロナ禍になり時間のゆとりができて自身に目が向くと同時に脱毛に関心を持つようになったのに対し、女性は、コロナ禍の生活で何かが大きく変わったというよりも、もともと興味や関心があり、ちょうどおこなうタイミングがこのコロナ禍に重なっただけという可能性が考えられる。

次に、美容整形について、男性はコロナ前は 12 名 (38.7%)、コロナ禍中は 19 名 (61.3%) に対し、女性はコロナ禍前が 9 名(56.3%)、コロナ禍中が 7 名 (43.8%) であり、性差が認められなかった (クラメールの $V = .17, p = .25$)。少なくとも、コロナ禍になってから興味関心を持ち実施した人達がある程度の割合で存在することが確認された。理由も合わせて考えると、コロナ禍による生活変化が大きなきっかけになったことが伺える。

そして、増毛について、男性はコロナ前は 21 名 (50.0%)、コロナ禍中は 21 名 (50.0%) に対し、女性はコロナ禍前が 20 名(57.14%)、コロナ禍中が 15 名 (42.86%) であり、性差が認められなかった (クラメールの $V = .07, p = .53$)。美容整形と同様に、男女ともに、コロナ禍になってから興味関心を持ち、そして実施した人達がある程度いたということであり、理由も合わせて考えると、やはり、コロナ禍という状況がきっかけになったことが伺える。

満足度 脱毛について男女別にまとめたものを Figure 8 に示す。性差は認められなかった (クラメールの $V = .07, p < .90$)。美容整形について男女別にまとめたものを Figure に示す。全体的に男性の方が満足した傾向が認められるが、データの数の問題もあり有意で無かった (クラメールの $V=.25, p =.58$)。増毛について男女別にまとめたものを Figure に示す。全体的に男性の方が満足した傾向が認められるが、データの数の問題もあり有意で無かった (クラメールの $V=.25, p<.31$)。全体として、明確な性差は示されなかった。このことから、理由や興味関心時期にかかわらず、そして、具体的な内容の違いはあるにも関わらず、おこ 身体管理に男女ともある程度満足しており、男性の方がやや満足している傾向を 示唆されたといえる。満足度にはどのような心理的効用の享受が関連しているのかについては、改めて検討をおこなうことが有用と考えられる。

Figure 8 コロナ禍中に開始した脱毛の満足度

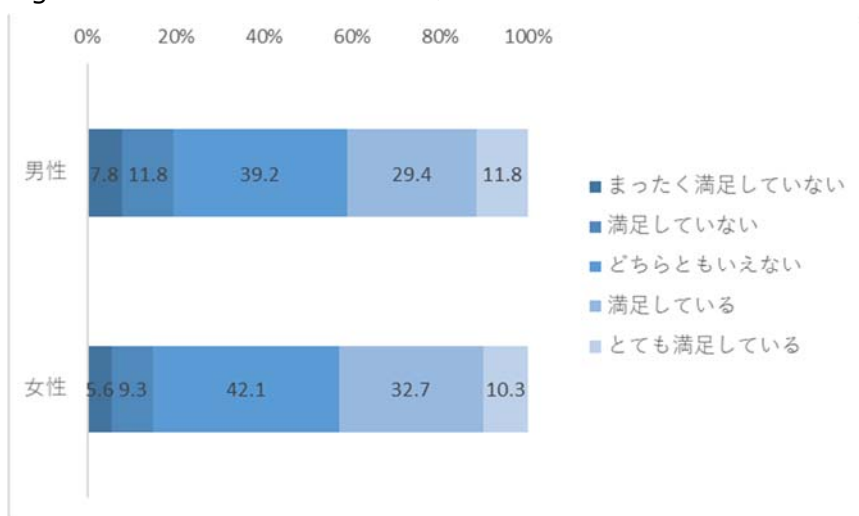


Figure 9 コロナ禍中に開始した美容整形の満足度

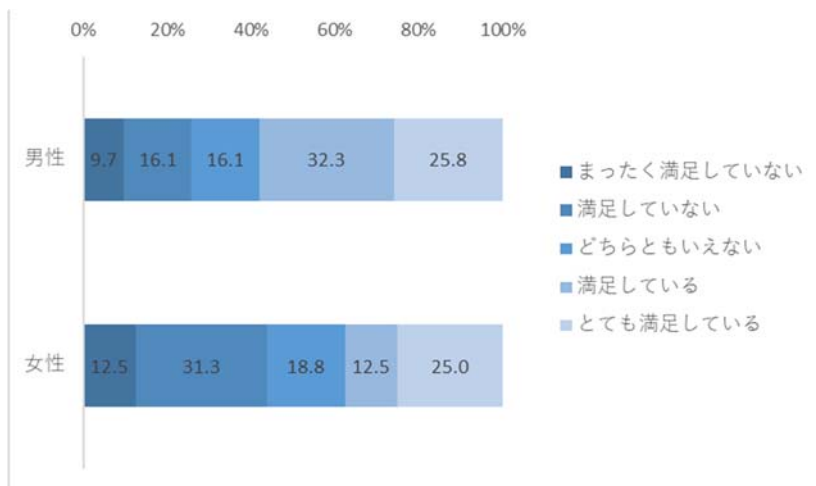
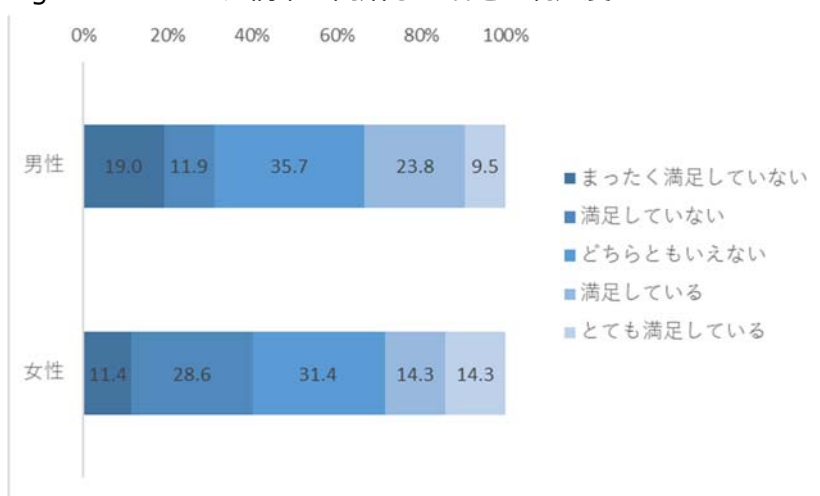


Figure 10 コロナ禍中に開始した増毛の満足度



まとめ

本調査は、コロナ禍中の身体変工経験の増加について、性差や年齢差もあわせて明らかにすることと、コロナ禍中に経験した人の理由について明らかにすることであった。

まず、いずれの身体変工においても、コロナ禍中の経験の増加は大きいものであることが確認された。もちろん、絶対的な基準はないとはいえ、「コロナ禍前」には10年前に経験した人やそれ以上に経験したことがある人も含まれると考えると、この3年間の経験数は決して少なく無いと考えられる。特に、増加という点では、若年男性において顕著であった。全体的に、生活パターンが変わることによって時間に余裕ができたり、自身を見る時間、また意識する時間が増えたことがきっかけとなっていることが示唆された。

問い合わせ先：アピアランス心理センター 担当（鈴木） cap2020.suzuki@gmail.com

注1：この報告書は、鈴木公啓（東京未来大学）と矢澤美香子（武蔵野大学）が実施した調査内容をまとめたものである。

注2：本報告書の内容に言及する場合は、「アピアランス心理センター」の調査であることを明示すること。学術文献内にて先行研究として引用する場合は、「鈴木公啓・矢澤美香子（2023）. コロナ禍での身体変工経験増加の実体およびその理由－脱毛や美容整形や増毛を対象とした検討－ アピアランス心理センター報告書 No. 1 アピアランス心理センター」として引用すること。